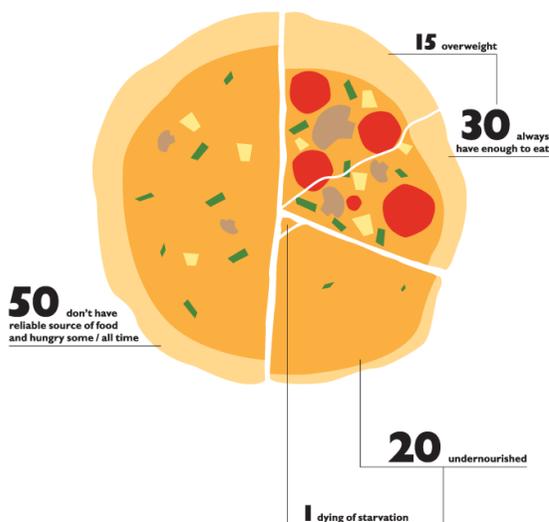


世界がもし 100 人の村だったら

If the world were a village of 100 people

FOOD



世界がもし 100 人の村だったら、

15 人が体重オーバー、
 30 人がいつも十分に食べることができる一方、
 50 人は食料があるとは限らず
 お腹が減った状態で、
 20 人は栄養失調、
 そして 1 人は飢餓が原因で死亡しています。



村びと 100 人のうち 33 人は
 ビタミンやミネラルが足りないために、
 思うように働いたり遊んだりできません。
 70 人は、鉄分が足りません。
 途上国では、妊娠している女性の半分以上が
 鉄分不足です。
 そのため、お産の時にたくさんの
 母親や子どもが亡くなります。

(中略)

世界がもし 100 人の村だったら、

1 年の間に 75 人は 20 キロ、5 人は 80 キロの肉をたべています。

牛丼 1 杯には、2 トン以上の水がいります。

いっぽうで 16 人の村人は料理に使うきれいな水がありません。

40 人の台所には下水施設がありません。



裏面もあります

(中略)



この村でつくられた穀物を、平等に分ければ、
すべての人が、1日 2800 キロカロリーの食事をとることができます。
もし、めぐまれた25人が、肉や牛乳やバターを食べるのを10%へらしたら、
17人の栄養不足の人に穀物をまわすことができます。

(中略)

そんなのは夢だと、あなたはいうかもしれません。でも、こうも考えてみてください。

街角のコーヒーチェーンには、

フェアトレード(公正貿易)のコーヒーを売っているところがあります。

もしあなたがそれを飲めば、

ラテン・アメリカなどの小さな農園の農民は、きちんとした食事ができます。

もしもあなたが、草地で育った乳牛のミルクや国産の餌で育った牛の肉を買えば、

こんなにたくさんの穀物を輸入しなくてすみます。

(中略)

お金は、人気投票の手段です。

わたしたちは より好ましい世界からやってくる

より好ましいたべものを 買うことで

より好ましい世界を少しずつ、でも確実に、力強く 引き寄せることができます。

さあ、想像してみてください。

もしもあなたが もう少したくさんごはんをたべたり 国産の米粉でパンや洋菓子を焼いたり

肉や卵や牛乳を少しだけへらしたり 工夫して、水道の水でおいしいお茶をいれたとしたら。



もしもあなたが 地元でとれた野菜や魚を買って、

自分で料理し 旬のくだものの皮をむき 自分でたべられる分だけとりわけて
なるべくのこさないようにしたとしたら。ごみを土にかえしたとしたら。

「ごちそうさま」の向こうには どんな世界がひらけるでしょう？

(後略)

「世界がもし100人の村だったら たべもの編」 池田香代子+マガジンハウス編 より



私たちの命を支えている食べものの背景には、多くの人々や社会、世界全体が関わっています。学校の授業やニュース、本などを通しても食と世界の関わりを知ることができます。持続可能な世界をつくるために自分にできる身近なことを、考えてみませんか。